

普及活動情勢報告（平成29年3月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

情勢報告

施設園芸産地の強化に向けて・・・幡多地区環境制御技術研修会・・・	
	2月22日、幡多地区環境制御技術研究会で全農の吉田氏を招き、生産者・関係者あわせて44名が参加して、黒潮町のキュウリ・トマトの現地ほ場と四万十市研修施設あぐりっこで環境制御技術研修会を開催しました。 農業改良普及課からは、キュウリ・ミョウガ・ピーマンの実証試験の経過報告と今後の課題・方針について、研究会会長のピーマン農家井本氏からは、環境制御の定着を目指した中村ピーマン部会の活動について事例発表をしました。また吉田氏から「植物生理と理想の植物体に近づけるためにすること」と題した講演をしていただきました。参加した生産者からは、活発な質問や意見があるなど、関心の高まりがうかがえました。 農業改良普及課は、今後も研究会活動を支援し、施設園芸産地の強化に取り組めます。

集落の農地を守るぞ！！・・・(農) わらびおか設立総会・・・	
	2月19日、四万十市蕨岡集落において、農家、関係者合わせて28名が出席し、「(農) わらびおか」の設立総会が開催されました。 組合員数19名、代表理事には施設園芸を営む地域のリーダーが就任しました。H29年度は約10haの農地を集積し、水稻を中心にした経営を開始して、計画的に施設・機械を導入する計画となっています。 農業改良普及課では、法人の経営安定に向けて、栽培から経営面全般への支援を行っていきます。

集落の農地を守るぞ！！・・・森の里春遠集落営農組合・フォレストファーマーズ下切設立総会・・・	
	3月4日、大月町春遠集落で「森の里春遠集落営農組合」、3月5日、三原村下切集落で「フォレストファーマーズ下切」の設立総会が開催されました。 「森の里春遠集落営農組合」は組合員7名で、水稻の協業経営を開始し、徐々に規模拡大を計画しています。また、「フォレストファーマーズ下切」は組合員14名で、水稻の協業経営・規模拡大と合わせて、林業経営を視野に入れた取り組みを計画しています。 農業改良普及課では、両組織の発展に向けて、施設・機械の計画的な導入や経営規模拡大に向けた支援を行っていきます

販売トラブルを未然に予防・・・J A高知はた集出荷場点検の実施状況確認・・・



3月13日、J A高知はた販売課、園芸連幡多駐在、農業改良普及課の職員で6カ所の集出荷場を巡回し、GAPの点検実施状況を確認しました。

農業改良普及課は、点検項目について書きにくいところを聞き取りするとともに、異物混入に繋がる可能性のある箇所の写真撮影を行いました。担当者からは「点検結果の判断に悩むので点検内容をもっと詳しく書いてほしい」という声がありました。

農業改良普及課は、J A、園芸連とともに毎月全集出荷場を巡回して課題を整理し、効率的かつ効果的な実施に繋がっていきます。

市場トラブルゼロ達成！・・・大方南部鉄砲百合部会・・・



J A高知はた花き園芸部鉄砲百合部会では今園芸年度から『灰色かび病、咲きすぎ、下葉の枯れあがりによる市場事故を絶対に出さない』という目標を立て、結露センサーを用いた灰色かび病防除や、出荷物検査などに部会員全員で取り組んできました。

農業改良普及課は、結露センサーで測定した結露値に基づいて防除指導を行い、予防防除を意識付けました。農家からは「今年は灰色かび病が少なかった。指導のおかげ」という声もいただきました。また、J Aと連携して出荷物検査体制の提案や毎月の目慣らし会、奇形花の開花試験などを行い、出荷物の品質向上に努めました。その結果、毎年10件程度発生していた市場事故及びトラブルが無くなりました。

農業改良普及課は、防除体系の提案や市場との意見交換を行い、市場トラブルゼロの継続と品質向上を目指します。

集落営農を進めよう！・・・集落営農講演会の開催・・・



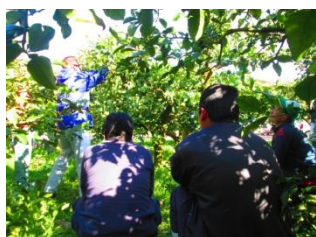
3月1日、土佐清水市集落営農塾が開催され、16名の参加がありました。

講演会では、愛媛県西予市「農業法人（有）豆道楽」の渡邊社長から法人化に至る経緯や、加工の取り組み、新たな事業展開、今後の課題等についての話がありました。

農業改良普及課は、幡多地域の集落営農の取り組みや今後の活動計画について説明しました。各市町村や集落からも情報提供があり、活発な意見交換が行われました。

農業改良普及課は、今後も集落営農組織の立ち上げや、既存組織の経営発展に向けた支援を行って行きます。

土佐文旦の低樹高化を推進・・・後継者の栽培基礎講座の開催・・・



2月27日、宿毛市宇須々木で剪定講習会を開催し、土佐文旦栽培農家の後継者11名が参加しました。

農業改良普及課は、親世代と雇用者の高齢化に伴い、労力の軽減や安全を確保することや、高品質安定生産のため低樹高化を推進しています。

低樹高化実証ほの調査結果から、樹高220cmでも樹冠容積の拡大を図れば3.5t/10a程度が可能であることを説明した後、実技講習を行いました。

参加者から「樹が低くて本当に収量が取れるのか」と不安がる声がありました。

農業改良普及課は、今後も基礎講座を定期的で開催し、高品質安定生産のために、低樹高栽培の普及に取り組めます。

競争力のあるオクラ産地の育成に向けて・・・後作オクラ現地検討会・・・



3月9日、黒潮町大方にてオクラの現地検討会を開催し、生産者18名が参加して3ほ場を巡回しました。

農業改良普及課からは、幡多管内の気象状況やオクラのセル苗栽培について情報提供し、収穫前の薬剤散布の徹底も呼びかけました。

生産者からは「芯止まりになったらどうしたらいい?」「収穫位置より上に葉は何枚あれば良い?」といった質問が挙がりました。また生産者間での教え合いも見られるなど栽培意欲を高めることができました。

農業改良普及課は、今後も定期的に現地検討会を開催し、オクラの安定生産に向けて支援していきます。

ぶしゅかんの産地拡大・・・新規栽培者講習会・・・



2月22日、四万十市役所でぶしゅかんの新規栽培者向けの講習会を開催し、生産者組合・四万十ぶしゅかん(株)も含め11名が参加しました。

農業改良普及課は、獣害や排水対策、苗木の切り戻し等、植付時のポイントや、目標とする木姿をスライドで説明しました。

出席者からは、植付間隔や植穴へ入れる資材、シカの被害後の対応方法や販売単価・販売先の選択など多岐にわたる質問が出ました。

農業改良普及課は、生産量の早期拡大を目指して栽培の支援を行っていきます。